

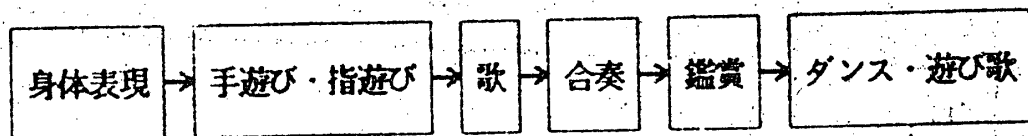
3. 合同音楽

(1) 音楽でのねらいと組み立て

音楽科の学習の中で、小学部の身体づくりにおける次のようなねらいが達成できると考えた。

- ① 模倣能力をつける。
- ② 音を聞いて即座に反応する即時反応の力をつける。
- ③ リズムに合わせた動きやリズムカルな動きを身につける。
- ④ 指遊びによって手指機能を発達させていく。
- ⑤ 身体表現による粗大運動機能を発達させていく。
- ⑥ 身体像 (ボディイメージ) ・身体図式 (ボディシエマ) を中心とした身体意識の能力を付ける。
- ⑦ 発声する機会を多く持たせる。
- ⑧ 友だちと手をつないで踊ったり、動作したりして仲間と一緒にすることを楽しみ、集団への意識を養う。

そこで、1時間の学習の流れを下記のようにパターン化することによって子どもたちに見通しをもって意欲的に取り組ませることができる。また、毎時間少しずつ繰り返して指導することによってよりねらいが達成されると考えた。特にからだづくりでは、身体表現・手遊び・指遊び、ダンス・遊び歌の部分で大きな役割を担っていると考えている。



これらの部分でのねらいを示すと

- ・模倣能力
- ・リズムに合わせた動き
- ・リズムの合わせた動き
- ・模倣能力
- ・粗大運動
- ・手指機能
- ・即時反応
- ・身体意識
- ・身体意識

- ・模倣能力
- ・リズムカルな動き
- ・リズムに合わせた動き
- ・粗大運動
- ・集団への意識

が考えられる。身体表現、手遊び、ダンス・遊び歌の内容を示すと以下のようなになる。

- | | |
|------|--|
| 身体表現 | <ul style="list-style-type: none"> ●リズムに合わせて、歩く・走る・はう・跳ぶ等の動きをする。 1曲を通して1つの動きをする。 |
|------|--|

- ゆっくり・速く、大きく・小さく等対になった動きを〔①見て模倣する②先生の言葉に反応してする③音楽を聞いて自分でする〕する。
- さくら・さくらんぼの歌と曲からうさぎとびの曲、あひるあるきの曲、かえるとびの曲、かになになって横歩きをする曲等も取り入れていく。
- 線の上を一列になって歩く、2人で歩く等も入れていく。

手遊び
指遊び

- グッ・パー、じゃん拳遊び。
1, 2, 3, 4, 5の指を出す。1～5本の指を立てる。
指同士を合わせる。
指できつね等の形を作る。

の指遊びを音楽にあわせてする。

- 1～2ヵ月の周期で指導し、定着を図る。クラスの朝の会帰りの会等との関連を図りながら指導していく。

ダンス
遊び歌

- 身体表現。歌の振り付けとは異なり1つの流れを持った動作をする。
- 二人で手をつなぐ、長い列になる、まるくなる等集団を意識するような遊びを取り入れていく。
- みんなですることを楽しませる。

○選曲にあたっては、季節感・歌詞が覚えやすい・擬態語が多く含まれたもの、同じ音同じ言葉同じリズムを繰り返す、行事等でよく耳にする・リズムカルなものを考えていく。

○示範を見て真似る等模倣の活動を大切にしていく。

○特にダンス・遊び歌では関連のある題材、発展していくような題材を選び繰り返しの中にも学習をより発展させていく。

② 指導計画

	身体表現	手遊び・指遊び	ダンス・遊び歌
6月	みんな、はさくり感いよ ぞさん、ちやん かもつれっしゃ	おべんとうばこのうた 第2～5指を出す。 第1指と2指で丸を作る	かもつれっしゃ 音楽にのって走る。 じゃん拳。組を作る。

7月	ミッキーマウスマーチ	どっちがどっち 1～5指を出す。 音楽に合わせて左右の指 を合わせる。	ゴムの輪のびろ 手をつないで回る。 伸びたり縮んだりする パッと手を放す。
9月	うさぎとびのうた	ゆびあそび ぐーぱーをする。 1～5までの指をする。	らかんさん 鬼の模倣をする。
10月	かにあるき	ずっとあいこ グーチョキパーを歌に合 わせながら正確に出す。	くるりとまわってへい！ ポーズ遊びをする。
11月	あひるあるき びっくりシンフォニー (歩く)	おやこきつね 歌に合わせて指できつね の形をして遊ぶ。	↓
12月			

このような指導計画にそって実践し、一人一人に対して細かい評価をしながら、指導を繰り返した。

③ 考察と今後の課題

- 指遊びについて言えば、自分の指を意識しだしピンとは立たないまでも立てようと努力している姿が見えた。短時間の指導を毎時間繰り返すことによる効果と考えられる。
- 3学期に行っている身体表現の汽車（和音の変化で床にうつ伏せるもの）では早い遊びの差はあるが全員音の変化を捉えてうつ伏せることができた。音を聴き取る力とともに自分の身体を操ることができだし身体意識が育ってきたと考えられる。
- リズム・サーキットと関連しているケンパーを音楽では歌（迷子のカンガルー）で迫ってみた。まだ指導の途中ではあるか跳べない子が跳ぶ・ケンパーの意識がない子が少し意識して跳んでいる・できている子がリズムカルに跳んでいる等の変化が見られた。子どもたちが楽しんで身体を動かす一つの手立てとして音楽は非常に有効なものだと考えられる。
- 系統性をふまえた指導計画をどうたてていくか、個に応じてどう指導していくか、子どもの意欲をどう持たせていくか等が今後の課題である。